

しんあい

季刊

2005年(平成17年) 3月20日発行 第56号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL 042-366-0080

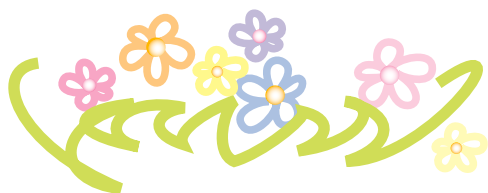
多摩同胞会のホームページを開設
しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をご覧ください



◀ 「鬼だ！やっつけろ！」
誰ですか、お面か素顔か
わからないなんて言っているのは。
(きずな)

▶ 華道の先生が生けられた花を
鑑賞中。カメラを向けられ、
いささか緊張。
(かんだ連雀)



介護に関するご相談は無料ダイヤルで！

- 泉苑在宅介護支援センター
☎ 0120-6540-24
老後支援 24時間
- あさひ苑在宅介護支援センター
☎ 0120-2942-24
福祉にっこり 24時間

- スウェーデン交換研修
- 座談会
地震!! 私たちの役割
- 施設だより
平成16年度をふりかえって

あさひ苑から研修に行った岡村さんと高村さんが「三つの財団」の広報紙にも紹介されました。



アンキさん・マリアさんからあさひ苑への提案(アドバイス)

補助器具の活用について



アンキさん

移動をはじめ、食事器具など、もっと補助器具を活用しましょう。器具を活用することでお年寄りの自立の幅がぐんと広がります。また、お年寄りの介助をする際は、職員が1人ではなく2人で行うべきだと思います。職員の腰への負担をかなり軽減できるはずです。

よむいんじゅ、あさひ苑へ

季刊しんあい54号では、法人職員のスウェーデンの高齢者福祉施設での研修を報告しました。そして今度はスウェーデン・ヨーテボリ市の「三つの財団」職員2名が来日されて、あさひ苑での実習を体験しました。日本からは大勢の福祉関係者がスウェーデンに研修に行きますが、スウェーデンから日本の福祉を体験するためにみえることはとても稀なことでしょう。

(今回もスウェーデン在住のハンソン・友子さんには通訳を含めコーディネイターとしてご協力いただきました。)

◇研修参加者 アン・クリスチーン・ハンソンさん (正看護師)

※文中ではアンキさんと呼ばれています。

マリア・テレセ・トレドさん (介護職員)

◇研修期間 平成16年10月18日～10月25日

◇研修施設 府中市立あさひ苑

(特養定員100名・)

ショートステイ10名・)

デイサービス 等)

交換研修日程

10月18日	成田空港着 あさひ苑にて実習の打ち合わせ 歓迎会
10月19日	オリエンテーション デイサービス実習 歌を歌ったり、ゲームに参加 府中市内法人施設見学 (緑苑、泉苑、しらとり) 職員との交流会(カラオケを楽しむ)
10月20日	特養ホーム実習 (食事介助、テナ交換など) マッサージ実演
10月21日	特養ホーム夜勤実習 (食事介助、就寝介助など)
10月22日	講演会・意見交換会 お別れ懇談会
10月25日	帰国

ユニットについて

ユニットの利用者数を縮小化してそれに見合った職員配置をすることで、担当制がしっかりと根づいて責任を持って仕事ができると思います。また、グループ活動の参加人数を小さくすると活動の選択肢が増えるのではないのでしょうか。認知症の方は人数が多いととても不安になるものです。グループを小さくすることで落ち着いた生活を送ることができると思います。



食事について



マリアさん

スウェーデンの施設では食事の時間をとても大切にしています。コーヒーやクッキーの香りで食堂に誘うことなど、まず大切なのは雰囲気づくりです。どうすればお年寄りが落ち着いた雰囲気なのかで食事をとることができるかを考えてみて下さい。

また、介助をする際は、利用者の側に座り目線を合わせて1対1で介助をする。これは、お年寄りとのコミュニケーションもとることができ、食事をする上で何よりも重要だと思います。しかし現状のあさひ苑のお年寄りの数、お年寄りのADLや職員体制を考えると難しいと思います。

少しずつでもいいのでこのような考えを実行できるように工夫してみてください。



交換研修が長く続きますように...

平成16年5月にスウェーデンの「三つの財団」で実習をさせていただきました。その時は言葉も思うように通じず不安でしたが、同じ施設に数日間滞在し研修を受けられたことで見学だけでは得られない貴重な体験をすることができました。

そして10月にはスウェーデンでお世話になったアンキさんがお見えになりました。スウェーデンでは理解できなかった内容や研修後に疑問に思ったことを確認することができました。考え方や国民性が違ってても介護において目指すものは同じであると感じました。この研修を生かせるよう今後も努力していきたいと思えます。

(看護師 岡村 敬子)



マッサージ

私たちはマッサージができるよう徹底的に教育されてきました。これは私たちの所属する法人の方針です。それほどこのマッサージは重要視されています。マッサージは1対1で行うのがポイントで、2人だけの時間を作ることが大切です。

より効果的にするためには雰囲気にも配慮します。まず電気を消して、ろうそくの明かりを灯します。そしてクラシック音楽を流してリラックスできる環境をつくり出します。

このなかでお年寄りは安心して心地よい気持ちになります。

肝心のマッサージですが、オイルを使い手足や背中をゆつくりと撫でていきます。オイルの滑らかさ・マッサージによる気持ち良さで、痛みも和らげてくれます。また血圧や脈も落ち着いてきます。

何よりも大きい効果はお年寄りとの大切なコミュニケーションが充分とれることです。この2人だけの時間はお年寄りとの信頼関係をより深くしてくれます。

アンキさん・マリアさんからあさひ苑への提案(アドバイス)

コールについて

スウェーデンの施設のコールは、ポケベル式の小型のものを使用、職員が個別に持っています。そのため、フロアにコール音が鳴り響くことはありません。お年寄りの落ち着いた生活を考えると、大きなコール音が響くことは避けたいことです。



まとめ

あさひ苑の介護は機械に頼ることなくすべて人の手による介護であり、また少ない職員体制にも関わらずお年寄りの体の傷や褥瘡も少ない。シートもきれいに張られている。これにはとても驚きました。このような点では日本の方がしっかりした対応ができていていると思います。

また、スウェーデンの生活の中ではあまり重要視されていないお風呂ですが、あさひ苑のお風呂の充実度は素晴らしいです。機械浴もスウェーデンとは大きく違います。これはやはり民族性・文化の違いですね。日本の文化を象徴するとても素晴らしいことだと思います。

誇りを持てる介護をめざして

研修を終え帰ってきた時、あさひ苑とスウェーデンとの時間の流れがとても違い、もどかしく感じました。また、私たちがスウェーデンに行って学んだことをあさひ苑の職員にうまく伝えることができました。

しかし今回の交換研修でアンキさん・マリアさんはあさひ苑で実際にスウェーデンとの援助の違いを見せてくださり、他の職員にもリアルに伝えることができたと思います。

私はスウェーデンが福祉先進国であるということと身構えていました。しかし、今回の交換研修で、彼女たちのあさひ苑でのお年寄りとの接し方や視線は私たちと同じであることに気がつきました。スウェーデンが先進国だからという構えがなくなり、アンキさん・マリアさんより親密な介護の話をすることができました。文化の違いはありますが私たちが行っていることは間違っていないと再確認できたのです。これは私の大きな自信にもなりました。今後もお互いが刺激し合える研修を期待しています。

(介護員 高村 亜希子)



2人の大切なコミュニケーションの時間

スウェーデンでの研修においてまず初めに感じたのは時間の流れについてでした。スウェーデンの施設での時間の流れは、ご利用者ひとりひとりがご自宅でおくられてきた生活そのものでした。

座談会

地震！ 私たちの役割

昨年10月23日、新潟県中越地方を中心に震度7を記録する大地震がありました。東京都社会福祉協議会の要請に応じて、法人職員3名が被災地の高齢者福祉施設への応援に向かいました。座談会では、災害時の施設の役割などについて語っていただきました。

赤羽根進 (司会)
 神田事業所サービス調整室次長
 竜崎春希
 泉苑在宅介護支援センター
 相談員
 石塚淳史
 あさひ苑介護員 (2階担当)
 楠田敏也
 あさひ苑介護員 (デイB担当)



石塚さん
貴重な体験をすることができました。



楠田さん
山岳救助隊の経験を活かしたいと応援にかけつけました。



竜崎さん
日頃の防災意識を高めることが必要です。



赤羽根さん
施設の事業計画にも防災対策は欠かせません。

赤羽根 みなさんは今回の震災被災地へ救援のため派遣されたわけですが、まずはじめに、派遣された日程と施設についてご報告ください。

楠田 私は11月9日から14日まで、三島町の特別養護老人ホームみしま園(定員110名ショート16名)に派遣されました。築23年の建物で、本館と新館のつぎめがずれて段差ができていましたが、大きな被害はないようでした。在宅の被災者を定員の10%から20%オーバーして受け入れていました。私達が派遣された施設はすべて長岡三古老人福祉会という法人が経営している所でしたよね。

竜崎 私は東社協派遣第4班として、11月17日から22日まで老人保健施設でらどまり(定員147名)でお手伝いさせていただきました。

石塚 私は11月21日から26日の間、特別養護老人ホーム桐原の郷(定員60名+ショート35名)で介護業務をさせてもらいました。竜崎さんの「てらどまり」とは同一敷地内にある施設です。

赤羽根 それぞれの施設の状況や6日間の仕事はどうでしたか。
楠田 みしま園は地震直後からライフラインが止まりました。

赤羽根 施設の防災対策はどのような状況でしたか。
楠田 電池、電球などの備蓄が不足していたようです。情報を入手するためのラジオが施設になかったようでした。水は地震翌日には確保できたようですが、食材は第1優先で納品してもらえそうな協定を業者としていたようでした。

竜崎 下越の業者からの物資は混乱なく、届いていました。
楠田 テレビなどでは大きな被害の地域がクローズアップされていましたが、私達が派遣された施設のある地域は被害が比較的少なかったのではないのでしょうか。

竜崎 地震があったのは土曜日の夕方でしたよね。てらどまりでは施設長、副施設長も不在だったそうです。この日は電話もつながらず、管理者とは連絡が取れなくてとても困ったということです。

石塚 私が派遣された施設は建物の壁が壊れていました。職員は被害や通院で2、3人は欠勤していますが状況が状況ですので、職員のみなさんも愚痴ひとつなく働いていました。
赤羽根 地域との協力体制はどうでしたか。
竜崎 在宅介護支援センターの動きを聞いてみました。地震の翌日は日曜日でしたが、自宅のことで精一杯で在宅利用者にまで気がまわらなかったということでした。行政からの指示もなく、何から手をつければよいのかもわからなかったが、高齢者のみ世帯などの安否確認をしていた。後から聞く民生委員や消防団には行政から指示が行っていたようでした。

楠田 入浴施設を被災者へ開放していました。入浴のニーズというのは被災後1週間に高まるのだそう

ましたが、3日後には復旧したそうです。私が行ったときにはもうかなり落ち着いていました。主に入浴介助、食事介助を担当しました。職員も被災者ですから避難所から通勤して来る方もありました。

竜崎 越後湯沢までは新幹線がりましたが、そこからはバスでした。施設に着いてまず近くの体育館へ行き、救援物資の中から必要な物を選び施設に運びました。救援物資はもう足りているのですが、毎日送られてくるので、分類されていない物が山のようにありました。施設自体の被害は何もなかったようです。もともと病院だった建物なので、地震があったときも自家発電装置が稼働したそうです。地震の翌々日から緊急ショートの受け入れを開始し多いときには23名が入所されたそうです。私が行った時は9名でした。地震から1ヶ月が経っていたので、職員も利用者も落ち着いていました。こちらの法人は二人介助が原則ですので、もともと介護に関してはかなり余裕をもって行なわれているようです。ただやはり余震の恐怖感もあるようですし、被災した職員には疲労感もあり

です。
竜崎 地域のボランティアはいませんか。いちばん早く動いたのは東社協だったそうです。
赤羽根 今回の派遣で学んだことはありますか。
楠田 受け入れのマニュアルが必要かと思えます。手伝いたくても何をしたいのか、誰に聞けばいいのか・・・ただ介護の面から言えばお互いにプロです。派遣先の方々との出会いも貴重な体験でした。これからの降雪もあり、さらなる被害が心配です。

石塚 どんな状況下でも積極的に行動することと落ち着いた態度での介護が重要だと感じました。また命の尊さも実感しました。被災地をこの目で実際にみることで、被害の大きさも実感できました。

竜崎 11月20日に落雷による停電を経験しました。館内放送も懐中電灯もなく、職員も慌てるし、不安でした。1時間後には復旧しましたが、その間利用者の人員確認もありませんでした。泉苑で毎月実施している防災訓練の重要性が改めてわかりました。情報と指示がとても大切ですし、こういうときにこそ、コーディネーターが必要なんですね。

赤羽根 実習生やボランティアなど、外の人を受け入れるのは大変ですね。
今回みなさんが派遣された施設の被害はさほどでもなかったようですが、同じ規模の地震が東京で起こったら被害は甚大でしょう。法人の防災連絡会でも共通の問題として、震災後の施設のあり方などについて話し合っていきたいと思えます。きょうはみなさんありがとうございました。

(おわり)



平成16年度をふりかえって

各施設の平成16年度にあった、あんなこと、こんなことをお伝えします。

さつき

雪だるま??土だるま!!

2004年はなんとも季節がわからなくなるような年ではなかったでしょうか?

夏はいつから始まったかしら?秋はあったかしら?なんて思うくらい、11月頃まで暖かな気候が続いたかと思うと、一気に冬の天候に変わって...

そんな2004年の初雪は年末でしたね。子供たち念願の雪です。予想以上に降った雪は、車の上はもちろん、寮の庭や塀も真っ白にしました。

1歳の女の子は、ベランダでお母さんに抱かれて、生まれて初めての雪に手をかざしてみます。「つめたいね。きれいだね。」と話しながら...

2歳の男の子たちは雪の中を走り回ります。4歳の男の子は、上を向き、大きく口を開け、雪を食べるのに必死です。そんなかわいらしい幼児さんたちをよそに、小学生チームの登場です!車に積もった綺麗な雪から手をつけます。何をするか??いやいや。まだわかりませんよ。

持って来たバケツにどんどん、どんどん雪を押し込んでいきます。朝から始まった雪集めは、バケツ2つにギッシリ詰められていました。昼食を終えた午後、もう雪遊びは終わったものかと思っていたその時!!バケツに集めた雪を出し、庭で転がし始めました。

雪だるまが作れるほどは積もっていませんでした。雪だるまは見事に真っ黒です!!しかし子ども達はすごく嬉しそうでした。大人にとっては、きれいだけど寒くて嫌いな気持ちも隠せない雪。

けれど、やっぱり子どもは雪が大好き!!触るのだから、歩くのだから、食べるのだから、何だかってほしいでも、やっぱり雪は白!!雪だるまも白いのいいな(笑)

(保育士 金子 忍)



緑苑

緑苑の小さな畑

今年、緑苑に畑ができました。プランターを利用しての小さな小さな畑ですが、立派な作物が育ちますようにご利用者や職員からの大きな期待と注目を集めています。

春。夏野菜の苗を植えました。「野菜を育てるにはまず土が大切なんだ!」と、車椅子から身を乗り出しシャベルを片手にはりきるIさん。Iさんは以前農業を営んでいらつしたこの道のプロです。Iさんの他にも農業のプロはたくさんおいでになり、気温の上昇にも負けず水やり等毎日お世話に夢中になりました。

夏。皆様の愛情をたっぷり受け、立派なトマト、ナス、ピーマンが実りました。もぎとるなりその場で試食。「やっぱ取れたてが一番だよ」と。

秋。「農家は休む暇がないんだ。」とIさんを中心に、冬に向けて野菜の種を蒔きました。大根、人参、かぶ、ほうれん草...。残念ながら台風で半分以上の種が流されてしまいました。

冬。土から立派に首を出した大根を収穫することができました。想像以上に大きな大根で、歯を食いしばって引く張るIさん。一本掘るたびに大きな拍手と笑顔が緑苑いっぱい広がりました。

そしてまた春...。 (介護員 月山 充子)



現地スタッフとの昼食会 (左が飯田さん)



バンクーバーの街並み



ストリートチルドレンから立ち直ったユースとの交流会

第30回資生堂児童福祉海外研修報告 ～児童福祉先進国・カナダに学ぶ～

東京都網代ホームきずな
母子指導員 飯田 明子

資生堂児童福祉海外研修団のメンバーとして、平成16年9月25日から10月9日の15日間、児童福祉の先進国と言われるカナダのブリティッシュコロンビア州(BC州)を訪れ、2001年にBC州がうち出した『児童福祉を政府主導から民間へ移行』の実態を見聞するため、全16ヶ所(政府機関8ヶ所、民間機関8ヶ所)を訪問しました。

研修テーマであった『家族の重要性を尊重し、コミュニティをベースにしたより柔軟なサービスの強化』の実態は、政府側が「ケアに入る子どもが減り、成功している」とする一方で、民間側は「予算削減の影響を受けて施設の閉鎖やプログラムの減少を余儀なくされ、子ども達が必要なケアを十分に受けられていない」と主張し、意見の食い違いが見られ、政府主導から民間へ移行する難しさが伺えました。

そんな中でも、地域に密着した支援体制が確立されており、児童の権利擁護の意識の高さ、豊富な人材とスタッフの高い専門性、迅速な対応との確かなアセスメント、親と子ども双方への支援プログラムの充実等は日本と比べものにならないくらい進んでいる、限られた予算の中で質の高いプログラム(支援)を提供しようとする取り組みに感心と驚きの連続でした。

BC州では親から離れて暮らす子どもの多くが里親の元で生活していますが、問題が起きると里親が変わる「子どものためにまわし」の現実があり、里親の数はBC州

と比べて圧倒的に少ないけれど長期的に関わっている日本の里親との違いを感じました。カナダと日本では歴史や文化・意識の違いがあるため、一概に比較するのは難しいのですが、日本の現状では、子どもの心のケア及び自立支援には、里親だけでなく児童養護施設や自立援助ホーム等の役割は大きく、併せて行政の定期的なアセスメントの重要性も強く感じました。

研修中は英語の自己紹介に悪戦苦闘し、言葉がなかなか通じずもどかしい思いを何度もしましたが、現地スタッフとの食事会や子ども達・青少年達との交流は、どれも感動的な出来事ばかりで、一生忘れることのできない体験となりました。また、研修メンバーが児童福祉施設のほぼ全種(養護・乳児・母子・情緒短期治療・自立支援・自立援助・里親)で構成されていたため、様々な視点や立場から児童福祉について話し合うことができ、メンバー同士の交流も大きな財産となりました。

今までこれほど集中して勉強したことがないと思えるほど充実した毎日、あつという間の15日間でした。家族のきずなの大切さや、家族単位での支援の重要性、地域の中でのサポート体制の充実を改めて感じ、研修での貴重な体験から学んだこと・感じたことを大切にしながら、母子生活支援施設の職員として自分にできることから一つ一つ実践していきたいと思いました。

泉苑

「わわわ倶楽部」
くわわわわわ...

「わわわ倶楽部」というのは、泉苑が16年度最後の仕事として、急ピッチで準備を進めている「逆デイサービス」を展開するサテライトハウスの名称です。この「わわわ」は、それぞれ「輪」…「輪づくり(協力)合う(場)」話…「話す」「コミュニケーションを深める(場)」「和」…「和みの(なじみの)関係でくつろげる(場)」という3つのビジョンをあらわします。「わわわ倶楽部」は個別性を大切にご利用者に寄り添うケアの切り札!です。施設ご利用者にとって、ここでの小さな出来事一つ一つが、地域で暮らしていることを感じていただく大切な場面になるでしょう。ご利用者・職員の垣根をはずし、同じ地域住民として「輪」と「話」と「和」を大切に「老」と「暮らし」を楽しむ空間になると期待しています。

(サービスマネージャー) 高谷敦生



あさひ苑

あさひ苑の
逆デイサービス
が始まりました

逆デイ? そんな声が聞かれる中、あさひ苑での活動は昨年11月に始まりました。苑から10分程度の所に位置する人見研修所。一見、昔ながらの平屋を思わせるその趣は、お年寄りの皆さんの目にどう映るのか、手探りで始まりました。「何かをしなくちゃ。」と試行錯誤していた職員の思いが変わるのにその時間はかかりませんでした。縁側で日向ぼっこをしたり、食事を自分たちでよそい合ったり、苑では味わうことのできない静かな時間が流れます。

台所に立ちお茶の支度をする職員に「何するんだい?」とMさんが声をかけてくれました。お盆に湯飲みを用意し、やかの湯気を気にする姿は、若かりし主婦の頃の姿を思い起こさせてくれました。まだまだ、手探りな事に変わりはありませんが、皆さんの違った一面を覗かせてくれる活動、それが逆デイなのかもしれません…。

(介護員) 比嘉登美枝



きずな

強いぞー!

*いきなり優勝!…今年度から参戦した都内母子施設学童対抗ドッジボール大会。ルール上許されているため中高生が含まれるチームもある中「そんなの関係ないね」と予選リーグで全勝。勢いのまま勝ち上がったトーナメントの決勝では同じく初参戦で同じ法人の白鳥・さつき合同チームとの対戦になってしまいました(多摩同胞会の小学生、強い!)。それまでお互いに応援しあっていただけにみんな複雑な表情でしたが、堂々と戦って優勝トロフィーを持ち帰りました。

*花咲き村:前号で紹介した「ひげのおじさん」率いる花咲き村の皆さん。夏は流しそうめん&マスのつかみ取り、秋は芋煮会、冬は餅つきにと大活躍していただきました。いつも舌を巻くのがその準備の早さと力強さ。新年度も強力な助っ人、お願いします。

(少年指導員) 小島宗宏



しらとり

恐怖のサイレン!?

大地震など、自然による災害が多かった1年。しらとりでも防災訓練を行っていましたが、春の訓練ではサイレンが鳴った途端に大泣きし、フライングして逃げ出そうとする子どもたち。よほど怖かったのか、次の日からは「今日はサイレン鳴らない?」と確認していました。ところが、秋の訓練では「もう泣かないよ!」と子どもたち。そんなこと言っても、また泣くだろうと思っていたおとなの予想は大きく裏切られ、サイレンが鳴るとちょっとウルウルしながらも、きちんと約束を守って避難する成長した子どもたちの姿が…。「これなら、今地震がきても大丈夫!!」と思うほど嬉しくなっていました。本当はおこらないうに越したことはないのですが…。平成17年度も、自然の力に負けたくない元気に過ごしたいですね。

(少年指導員) 山田恵未



かんだ連雀

連雀旗揚げ!

何といっても「かんだ連雀オープン」これに尽きます!記念すべき4月12日、ご利用者様2名からのスタート。テレビもつかなかったフロアが、今では個性豊かなご利用者様ですっかり賑やかに。写真はお正月の1コマ。こんなに素敵な笑顔に囲まれ新年を迎えることができました。

開設当初:新人職員多数の中、先輩方はさぞハラハラドキドキの毎日だったことでしょう。「おケツ」は丁寧語じゃないですよ?と突っ込まれながら、日々成長。いまや貫禄さえ感じられる新人!?!さらに、私たちを温かく見守って下さったのが大勢のご家族様です。ご面会「皆勤賞」なるか!?のご家族様の存在は連雀を語る上で忘れてはなりません。台風の日も、雪の日も足を運んで下さいました。どうかお風邪などひかれないうよう。来年度も皆様に囲まれて、頼れる元新人目指して頑張ります!

(介護員) 谷木ひとみ



岩本町

ケアハウス
流行語大賞

ケアハウスいわもとも無事に開設1周年を迎えることができました。新規事業ということで初めて体験する事も多く、無我夢中で取り組むうちに、いつの間にか1年経過していたと感じています。印象深い行事の中に七夕飾りを利用者の皆様と作った思い出があります。普段は穏やかで控えめなTさんにお願い事を書いていただくとうと短冊を渡したところ、「世界は私のもの」とお書きになったのです。スケールの壮大さに驚きと感心です。今年のケアハウスの流行語大賞だね!と盛り上がったのが思い出されます。あれから利用者の方も次第に増え、3月には定員20名全員がそろそろ見通しになりました。来年度もまた皆様と一日一日を大切にしたいと思います。

(介護員) 野田 久美子



御寄贈のりがやんぱびつまつ(敬称略)

秋川幼稚園 西川武子 秋場一男 阿佐美悦子 在原弘司 石井宏 伊東昌一 インターナショナルスパーサーカスお台場公演実行委員会 内田たみ 乙葉格 乙葉香代子 乙葉美代子 小倉妙子 株式会社アップルファーム代表取締役上高瑠美 石川重之 大竹英夫 碓クニ 内堀秀男 内本平八郎 開米哲郎 加藤光子 内嶋京子 カワダトミ 川本暁子 グローバルレインボーシッブ 小菅久子 近藤宏 在日米軍司令部海兵隊中尉ロイ・M・ドレイ(株)資生堂お客さまセンター 斉藤貞子

佐藤肇 七田康治 浄土宗東京教区八王子組青年会長長谷川輝昌 有限会社GMPインターナショナル 株式会社ジャパンエナジーCSR推進部JOMO童話基金事務局(株)武富士社会貢献室(財)東京都福利厚生事業団管理部企画課 竹井シエ 田中美津子 谷合ゆかり 千葉直 混合倫子(福)東京福祉会 株式会社東京三菱銀行社会貢献室 東京出版協同組合 東穀協会 財団法人日本出版クラブ 西嶋晃健 西田晃野口旭 中川千恵子 報知社会福祉事業団 橋本印刷 細内進 平澤功

夫 日立製作所内親切会関東支部(有)ハムカンパニー(株)プロボスタ 府中市民朝市実行委員会 増山光快 三鷹市子育て支援室 緑寿会 緑町自治会 緑町睦月会 宮澤正夫 株式会社みずほ銀行公務第一部署外第一チーム佐伯部長代理 増島みどり 毛利睦子 米屋株式会社 山口菊子 由井力 山中権之兵衛 和田喜久夫

(平成16年9月~平成17年1月)

ボランティアの御協力ありがやんぱびつまつ(敬称略)

相川喜代子 青木成江 青山幸子 赤林好子 安達正昭 安達正昭 阿彦良枝 阿部才千代栗 翔吾 飯島昭子 飯田アヤ子 飯塚喜多子 生出弘子 石井宏 石川滋子 石坂勝世 石原 和泉こども園 和泉小学校 ビッグバンドクラブ 市川アイ子 伊藤京子 伊藤浜子 伊東富美子 井上宏子 井踏世津子 岩井彩乃 岩井宏美 上野玲子 魚住仁恵 鶴沢シズ 梅澤佳代子 梅津志美 江口垂津子 遠藤伊代 遠藤博 遠藤みつよ 大口奈央 大久保峯子 大倉弘子 大西妙子 小笠原敦子 岡田正一 岡田基子 岡野登喜江 荻野和子 荻原八枝 小倉一友 小倉道子 尾崎節子 尾崎ヨシ子 覚張初江 恩田猛 笠間豊子 梶田慶子 鹿島千重子 片山千代子 加藤静 加藤大空 加藤博子 角谷麻水 上沢美知子 亀岡紀知信 唐沢典江 唐沢由紀 川崎恵 川崎綾子 川崎和代 菊池智子 北邑ヒデ子 城所栄子 木下照子 木野眞貴子 木村直子 草野美鈴 久保田摩耶子 熊倉洋子 倉岡政史 倉持武文 桑田陽平 警察学校 弦間まさ 小泉文代 小出農一 小出由美子

小岩井雅人 河野トシヨ 小島久子 小島百合子 小林貞子 古森美沙 紺野和子 斉藤修子 斉藤昂 佐伯真美子 坂本越子 桜井万理子 佐藤逸郎 佐藤なかり 佐藤紀子 佐藤初江 佐野田鶴子 重田文子 下江美鈴 シニアアンサンブルグループ 島津弘子 清水文枝 清水通子 進藤サエ子 新堂彰子 進藤輝子 鈴木チエ子 鈴木千代子 鈴木嘉子 角田ミサホ 正津美記子 瀬戸貞子 芹沢光枝 園部あさ 高田道敏 田洋子 高鍋恵子 鷹野榮子 高野晴美 高橋幸子 高橋ちよ子 田口稔子 竹内範子 竹内由美子 竹葉梓 竹松ふく 辰本ケイ子 田中翠 田中久美子 谷口信子 丹野由紀子 千葉よし ちよだ音楽プロジェクトアクアプラネット 辻てる子 辻八郎 土屋和子 綱代恵美 東京家政学院中学校2年生 遠山智 徳永桃子 ともしび音楽隊 中垣春代 中川静子 中下秀子 中嶋永子 長島広美 中田愛子 長田志津子 永野信子 中村清美 中村美佐江 中山康 奈須静江 新津好美 二家貞子 西木操 西久保長子 西澤弘至 西宮智恵子 丹羽千代

野坂昭弘 丹生初江 橋本豊子 長谷川宣子 羽鳥みのる 花咲き村花沢浩子 羽山直子 原田康子 肥後住江 平井敦子 平澤みどり 平山房子 深澤康二 深澤昌永 福岡恵利子 藤澤将志 法師人富子 堀切重明 Mr.マック 牧内ヤス子 牧野新子 間島渉 松浦登糸子 松尾道子 松崎好子 松沢通子 松澤通子 松下朗 松下朋子 松田恵子 松野アイ 松原優子 水谷静枝 三井喜久江 三溝久枝 宮澤由紀 枝 宮沢よし 宮下美智子 明神よし恵 明神れい子 三輪孝子 村田潔 本橋 森住よ志枝 盛田光代子 守永朋子 八木かつ子 安岡美恵子 安田敬子 山上涼子 山崎玲佳子 山下たか子 山田一丸 山田佳津江 山田喜美江 山田サワ子 山田シヅ 山田順子 山田登 大和町すみれ会 山本峯子 山柳山柳 横田公子 吉田陸子 吉村美咲 米沢明子 米山秀子 奥良正隆 渡辺勇 渡辺キク 渡辺たつ子 渡辺優子 渡辺理美 脇山令子

(平成16年9月~平成17年1月)

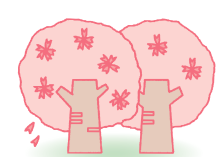
編集後記

季刊誌の編集委員は毎年各施設から選ばれたいろいろな職種の職員が担当します。季刊しんあいは年間4回発行を目標に編集委員が日夜取材を続けております。皆様からのご意見が励みになります。(編集長・上野広美) 文章を考え、校正することは初めての経験で思った以上に大変でした。これからは、少しは本を読もうと思えます。(泉苑・宗澤 章) 温かい「家族支援」を幅広く展開している多摩同胞会をこれからもたくさんお伝えしていきたいと思えます。(しらとり・有村菜香)

季刊しんあいを通して多摩同胞会を深く知ることができ勉強になりました。(あさひ苑・大村真由) 10年を振り返る座談会で利用者の方々からたくさんのお話を聞くことができ勉強になりました。(緑苑・竹内裕子) 皆様にわかりやすく楽しんでいただける記事が書けるようがんばります。(若本・川端裕子)

神田地区の多くの方々に好評いただいています。これからもがんばります！(連雀・阿久津弘) ご利用者さまの笑顔に一段と敏感になりながら取材させていただきました。(連雀・野澤真紀子) 季刊しんあいが読みやすく、おもしろい広報誌だということから多くの人に伝えたいと思います。(泉苑・比嘉幸代)

編集は得意ではなかったけれど、記事探しの面白さが少しだけわかったような気がします。(さつき・市村英貴) ホームページ以上に情報を発信する？しんあい。読みやすくと推敲を重ねつつ改めて日本語の難しさ、美しさを感じました。(きずな・小島宗宏)



- 特別養護老人ホーム 信愛泉苑 高齡者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター 養護老人ホーム 信愛寮 特別養護老人ホーム 信愛緑苑 府中市立特別養護老人ホーム あさひ苑 府中市立あさひ苑高齡者在宅サービスセンター
- 特別養護老人ホーム かんだ連雀 かんだ連雀高齡者在宅サービスセンター 千代田区立岩本町ほほえみプラザ 子ども家庭支援センター しらとり 母子生活支援施設 白鳥寮 母子生活支援施設 東京都網代ホームきずな 母子生活支援施設 中野区さつき寮